

### (3) 児童生徒による発表

東長良中学校生徒による合唱発表

【児童生徒による発表の様様】



### (4) 講評

国立教育政策研究所 樋口雅夫教育課程調査官

### (5) 講演「かしこい消費者になるために ～身近な生活談義～」

三瀬 顕 弁護士（元NHK『生活笑百科』コメンテーター）

【講演の様様】



## **(6) 消費者教育に関する教材・資料の展示**

◇38の企業・団体が教材・資料の展示に協力。

### **【教材・資料の展示 実施団体一覧(50音順)】**

朝日新聞社	生命保険文化センター
カルビー	製品評価技術基盤機構(NITE)
環境省	積水ハウス
金融広報中央委員会／岐阜県金融広報委員会	全国銀行協会
金融庁	ソフトバンクモバイル／企業教育研究会
岐阜県県民生活相談センター／岐阜県環境生活政策課	日本証券業協会
岐阜県司法書士会	日本自動車工業会／トヨタ自動車
岐阜市消費生活センター	日本生活協同組合連合会
岐阜新聞社	日本損害保険協会
経済広報センター	日本弁護士連合会
公正取引委員会	日本労働組合総連合会
国民生活センター	ダイキン工業
サントリー	第一生命保険
シャープ	中部電力
消費者関連専門家会議(ACAP)	東芝
消費者教育支援センター	野村ホールディングス
消費者庁	プロミス
「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)	読売新聞社
生活協同組合コープぎふ	早稲田環境教育推進機構／企業教育研究会

【消費者教育に関する教材・資料の展示の様様】



## 2. 第2日目（2月23日）

### 【第2日目（2月23日）のプログラム】

場所：ホテルグランヴェール岐山 2階 カルチャーホール

#### (1) 挨拶 9：30～9：40

文部科学省 合田生涯学習政策局長  
岐阜県教育委員会 松川教育長

#### (2) 事例報告 9：40～10：00

- ① 「親子で学ぶ消費者教育の取組について」
- ② 「学校と消費生活センターの連携・協力」

#### (3) シンポジウム 10：15～11：45

「地域社会における消費者教育 ～ 連携・協働をテーマに生まれるもの～」

コーディネーター：西村 隆男 横浜国立大学教授

パネリスト：高橋 忠明 岐阜市立東長良中学校長

大藪 千穂 岐阜大学教授

堀間 繁則 消費者関連専門家会議（ACAP）中部地区部会長

柴田 博子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）中部支部長

#### (1) 挨拶

文部科学省合田生涯学習政策局長および岐阜県教育委員会松川教育長より、関係者への御礼や、今後の取り組み等につき挨拶を行った。

#### (2) 事例報告

##### ① 「親子で学ぶ消費者教育の取組について」

文部科学省 工藤生涯学習政策局男女共同参画学習課消費者教育推進係長より、平成23年度の文部科学省の「親子で学ぶ消費者教育の取組について」説明し、教材やイベントの開催状況について報告した。

##### ② 「学校と消費生活センターの連携・協力」

岐阜市消費生活センター花井消費生活相談員、岐阜市青山中学校神山教諭、岐阜市加納中学校松原教諭より、岐阜市消費生活センターと学校との連携の状況、岐阜市消費生活センターからの出前授業の実施状況、出前授業の充実のための取り組みにつき、説明があった。

### (3) シンポジウム

#### 「地域社会における消費者教育 ～ 連携・協働をテーマに生まれるもの～」

コーディネーター：西村 隆男 横浜国立大学教授

パネリスト：高橋 忠明 岐阜市立東長良中学校長

大藪 千穂 岐阜大学教授

堀間 繁則 消費者関連専門家会議(ACAP) 中部地区部会長

柴田 博子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS) 中部支部長

#### 【シンポジウム議事要旨】

- ◇コーディネーターより冒頭、昨日の教員による公開授業、企業・団体によるデモンストレーション授業について振り返った後、今回のシンポジウムの位置づけ、社会的責任に関する円卓会議の概要につき説明を行った。
- ◇各パネリストよりそれぞれの取り組みを紹介。それぞれ他のセクターとの連携・協働や、消費者教育への取り組みについて報告を行った。
- ◇会場からは、「消費者教育の重要性は認識しているが、限られた授業時間のなかでは難しい」という意見があった。それに対しては、単なる被害防止に止まらない生きる力やキャリアプランニングなどを含んだ消費者教育を実施していくことが重要だという意見や、保護者・家庭との連携が重要だという意見が出された。
- ◇コーディネーターによる今回の総括として、①実際に連携はかなり進んでいるため、連携を一般化し、全国に広げていくことが重要であり、誰がコーディネーターとなるのが今後の課題であること、②あらゆる主体が社会に対して果たす役割を感じ、どうしたらよりよい社会が実現できるのか考え活動することが重要であることが指摘された。

【シンポジウムの模様】



以上